

第1回 航空整備士・操縦士の人材確保・活用に関する検討会 議事概要

日時：令和6年2月7日（水）10:00～12:00

場所：中央合同庁舎2号館低層棟1階 共用会議室5

出席者：

（委員（行政以外））

大塚委員、大政業務部長（吉田委員代理）、杉原委員、畑辺委員、松尾委員、李家委員
（行政）

航空局 北澤安全部長、石井安全政策課長、木内参事官（航空安全推進）、湊乗員政策室長、
藏安全政策企画官

事務局からの資料説明後、意見交換を行った。委員からの主な意見は以下のとおり。

（1）航空整備士関係

- 整備士不足への対策としては、安全確保を前提として、整備士養成・整備業務の効率化、裾野の拡大に向けた検討が重要
- 整備士養成の効率化は、教育訓練の負担軽減に向けて、整備士資格制度、指定養成施設等の制度について、国際的なルールとの整合性と現場の運用状況を踏まえた検討が必要
- 整備業務については、最新の技術動向等を踏まえた方法も参考にすべき
- 裾野拡大としては、国内人材に対する効果的な魅力発信等の整備士志望者の増加に資する取組や、特定技能制度等の利用による外部人材の一層の活用についての検討が必要
- 魅力発信には、関係者が連携した取組が必要
- また、採用を効果的に進めるためには、大学など採用リソースを拡大していくことも考えられるのではないか

（2）操縦士関係

- 操縦士の将来の需要増への対策としては、安全確保を前提として、操縦士養成に係る負担も踏まえた、より効率的な養成に向けた検討や国内の訓練環境の整備が重要
- 制度見直しについては、国際的なルールとの整合性と現場の運用状況を踏まえた検討が必要
- 安定的な操縦士の供給源である航空大学校については、効率的運用と機能強化を図り、私立大学との関係性も踏まえた更なる活用手法の検討が必要
- また操縦士の裾野拡大に向けて、志望者の増加に資する取組や、外国人操縦士等の更なる活用策や魅力発信に向けた取組を、関係者が連携して進めることも重要
- 回転翼操縦士についても、乗務要件の見直し・養成の強化の検討が必要

以上